

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>		-		<b>3.4</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.2</b>	0.15		-		<b>3.2</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40		-		
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.40		-		
1 開口部遮音性能				<b>3.0</b>	1.00		-		
2 界壁遮音性能					-		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-		-		
1.3 吸音		多目的ホールの壁、天井材に吸音材を使用		<b>4.0</b>	0.20		-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>3.0</b>	0.35		-		<b>3.0</b>
2.1 室温制御				<b>3.0</b>	0.50		-		
1 室温				<b>3.0</b>	0.38		-		
2 外皮性能				<b>3.0</b>	0.25		-		
3 ゾーン別制御性				<b>3.0</b>	0.38		-		
2.2 湿度制御				<b>3.0</b>	0.20		-		
2.3 空調方式				<b>3.0</b>	0.30		-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>4.1</b>	0.25		-		<b>4.1</b>
3.1 昼光利用				<b>4.2</b>	0.60		-		
1 昼光率		昼光率3.07%		<b>5.0</b>	0.60		-		
2 方位別開口					-		-		
3 昼光利用設備				<b>3.0</b>	0.40		-		
3.2 グレア対策					-		-		
1 昼光制御					-		-		
3.3 照度		照度887lx		<b>4.0</b>	0.40		-		
3.4 照明制御					-		-		
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.7</b>	0.25		-		<b>3.7</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50		-		
1 化学汚染物質		全面的に規制対象外もしくはF☆☆☆☆を採用		<b>4.0</b>	1.00		-		
4.2 換気				<b>3.0</b>	0.30		-		
1 換気量				<b>3.0</b>	0.33		-		
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上		<b>5.0</b>	0.33		-		
3 取り入れ外気への配慮				<b>1.0</b>	0.33		-		
4.3 運用管理				<b>4.0</b>	0.20		-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				<b>3.0</b>	0.50		-		
2 喫煙の制御		全館禁煙としている		<b>5.0</b>	0.50		-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	<b>0.30</b>		-		<b>3.7</b>
<b>1 機能性</b>				<b>4.0</b>	0.40		-		<b>4.0</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.0</b>	0.40		-		
1 広さ・収納性					-		-		
2 高度情報通信設備対応					-		-		
3 バリアフリー計画				<b>3.0</b>	1.00		-		
1.2 心理性・快適性				<b>5.0</b>	0.30		-		
1 広さ感・景観					-		-		
2 リフレッシュスペース					-		-		
3 内装計画		建物全体のコンセプトや機能が明確であり、事前に検証を行っている		<b>5.0</b>	1.00		-		
1.3 維持管理				<b>4.5</b>	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		内装仕上げ材は防汚性の高い仕上建材を使用		<b>4.0</b>	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保		適宜に清掃用具、清掃流しを設置		<b>5.0</b>	0.50		-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.7</b>	0.30		-		<b>3.7</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.8</b>	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		構造体Ⅱ類(I=1.25)を採用		<b>4.0</b>	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				<b>3.0</b>	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.4</b>	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				<b>3.0</b>	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				<b>2.0</b>	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		更新必要間隔が20年以上の仕上げ材を使用		<b>5.0</b>	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途3種(給水、雑排水、通気)のうち、2種類以上にB以上を使用(塩ビライニング鋼管・硬質塩化ビニル管)し、Eは不使用		<b>5.0</b>	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.20		-		
2.4 信頼性				<b>4.0</b>	0.20		-		
1 空調・換気設備				<b>3.0</b>	0.20		-		
2 給排水・衛生設備		災害時に雨水を便所洗浄水に使用		<b>5.0</b>	0.20		-		
3 電気設備				<b>3.0</b>	0.20		-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスSを採用		<b>5.0</b>	0.20		-		
5 通信・情報設備		マルチケーブル(電話)、光ケーブル(LAN)の設置見込		<b>4.0</b>	0.20		-		

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.3</b>	0.30	-	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり			-	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率0.23	4.0	1.00	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.7</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		周辺環境を読み取り馴染む形状・色彩計画とし、圧迫感を与えない景観を形成。	<b>4.0</b>	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		設計プロセスに地区住民(施設利用者)が参加している	<b>5.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		[BPI][BRIm]:0.85	<b>4.5</b>	0.20	-	-	<b>4.5</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm]: 0.78	<b>3.4</b>	0.50	-	-	<b>3.4</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.8</b>	0.20	-	-	<b>3.8</b>
1.1 節水		節水コマ、泡沫水栓、節水型便器の採用	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.7</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		雨水と井水を散水と便所洗浄に利用	4.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.5</b>	0.60	-	-	<b>3.5</b>
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		RWB(ロックウール化粧吸音板)、コルクタイル	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		内装が乾式工法で分別性に配慮	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.6</b>	0.20	-	-	<b>3.6</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含有しない建材を使用	<b>4.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		ODP=0かつGWP=1の高性能ノンフロン断熱材を採用	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		LCCO2排出率84%	<b>3.6</b>	0.33	-	-	<b>3.6</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>4.0</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 污水处理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		駐輪場と来庁者用、サービス用、臨時待機用の駐車施設確保	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		ゴミ量の推計や有価物の回収を計画	5.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		公共施設の照明率の高い器具を採用、広告物照明を行っていない	5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	